

令和 5 年度版

はたふり誘導講習会

横浜市 道路局 交通安全・自転車政策課

本日のトピック

1 小学生の事故の特徴

- ・ 小学生の事故の特徴から、なぜ旗振りが必要なのかという理由について

2 子供の特徴

- ・ なぜ子供は事故に遭いやすいのか、代表的な子供の特徴について

3 はたふり誘導の方法

- ・ 実際の誘導の方法や注意点について

本日のトピック

1 小学生の事故の特徴

2 子供の特徴

3 はたふり誘導の方法

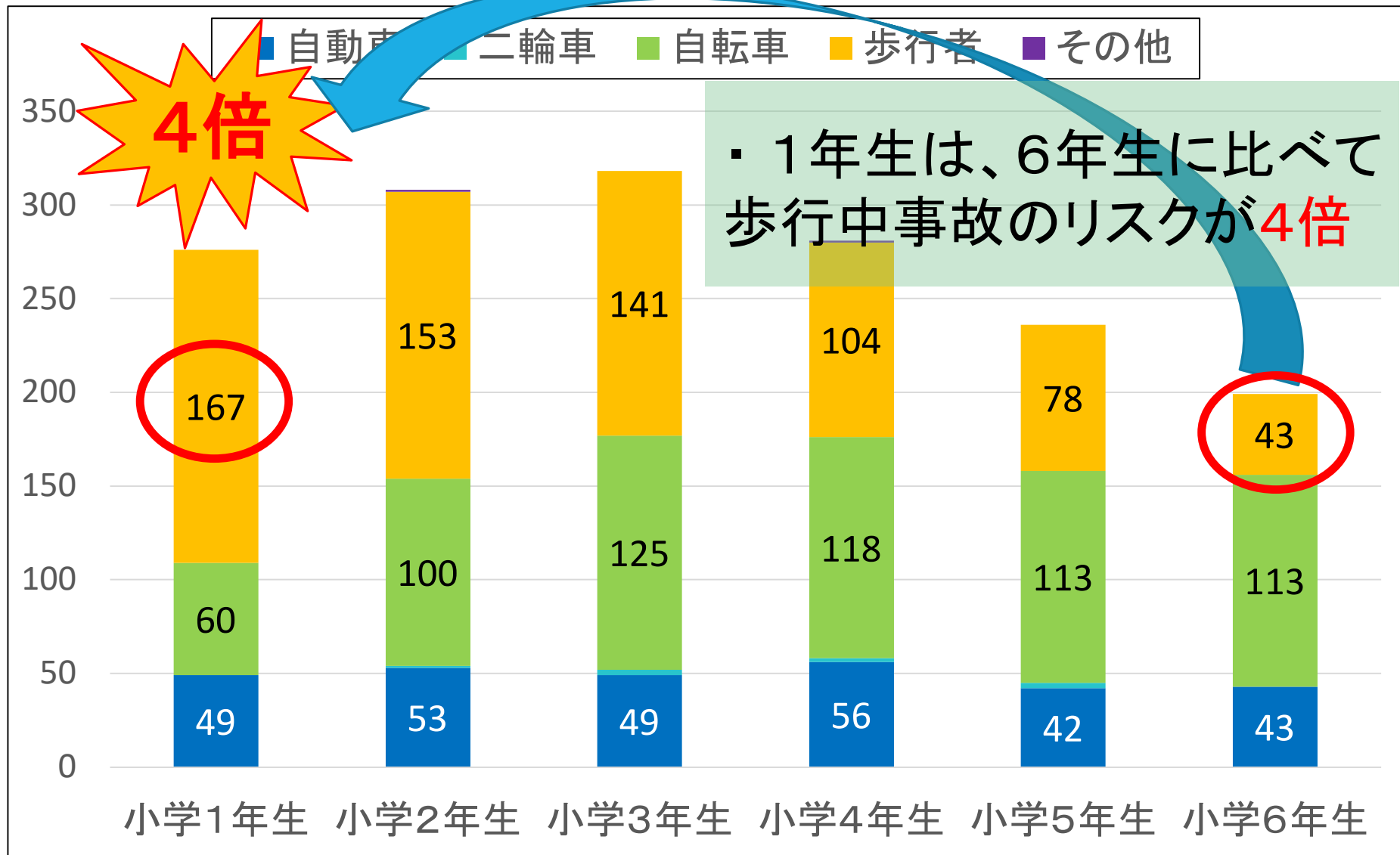


横浜市内 歩行中・年齢別死傷者数 (2018年～2022年)





横浜市内 学年別・状態別死傷者数 (2018年～2022年)





横浜市内 歩行中小小学生の事故原因 (2018年～2022年)



1 まとめ

- **7歳**が最も危険
- **低学年**ほど歩行中の事故に遭いやすく1年は6年の**4倍**
- 事故原因は「**飛び出し**」

本日のトピック

1 小学生の事故の特徴

2 子供の特徴

3 はたふり誘導の方法

特性その①

視野が狭い

- ・ 大人に比べて児童の見える範囲は狭い

大人と児童の視界 (上下)

120°

70°



大人

児童

- ・ 大人に比べ身長が低いうえに、**6割程度**しか見えていない

大人と児童の視界

大人150°

(左右)

児童90°



- ・ 上下の視界と同じく、左右も大人の**6割程度**しか見えていない

特性その②

一点集中しやすい

- ・ 物事に一点集中しがちで、安全確認が疎かになりやすい

一点集中の危ない具体的な事例

- 転がったボールを追いかける



- 友達が走り出すと
周りを見ずについていく

- 目的地が見えると走り出す



児童には
見えていない！



・「飛び出し」は、物事への「一点集中」と「視野の狭さ」が重なって起こりやすい

特性その③

感情コントロール が苦手

- ・ 大人に比べて感情のコントロールが不得意

感情に関係する危ない具体的な事例

- 遊んでいて興奮
- 怒られてイライラ



「急に走り出す」

「蛇行する」

- 泣いたりうつむいたり



「周囲が見えなくなる」



特性その④

他者理解ができない

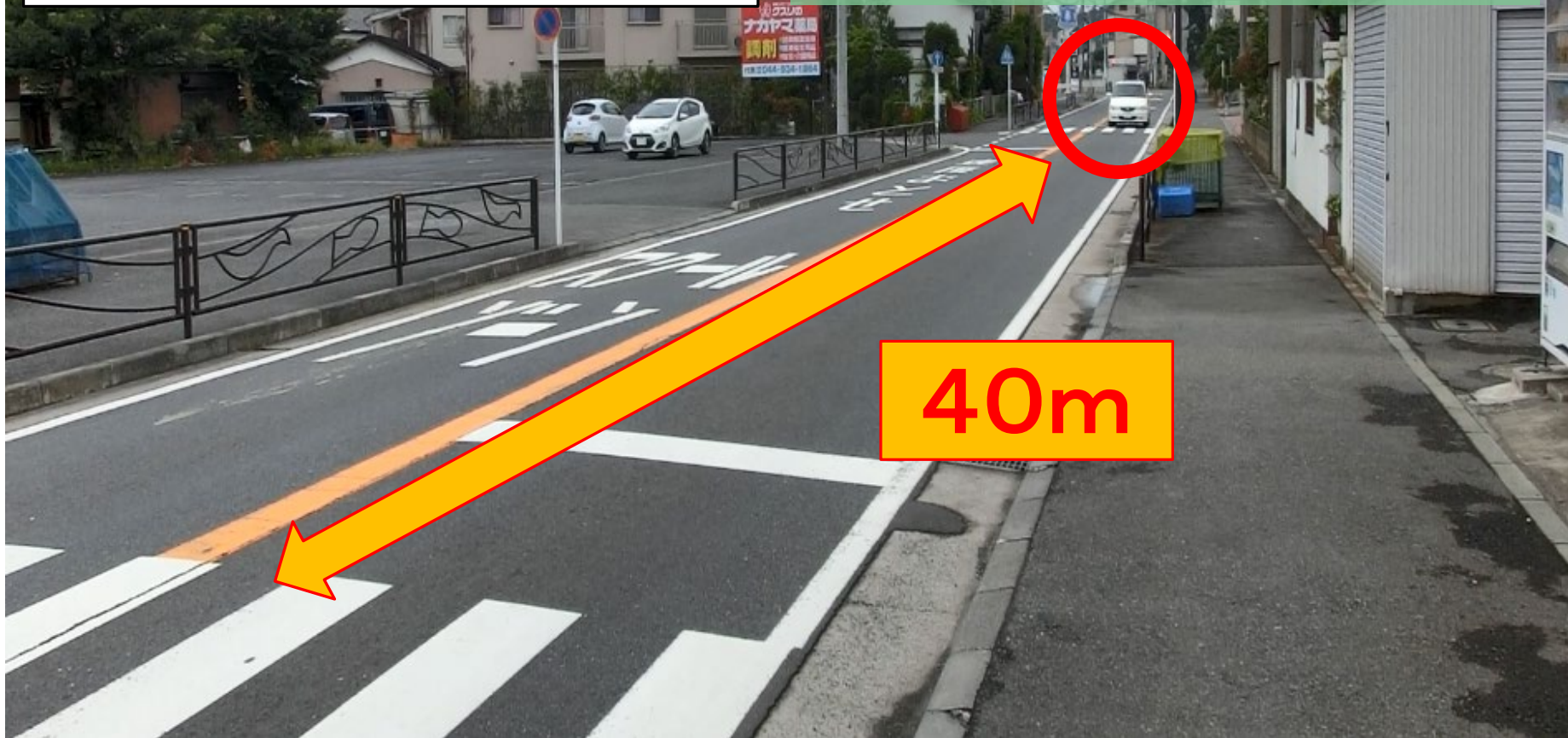
- ・ 他者の立場に立って物事を考えることができない ⇒ 一般的には小学校入学前後まで続く特性

・**時速30km**の場合

車が来るまで

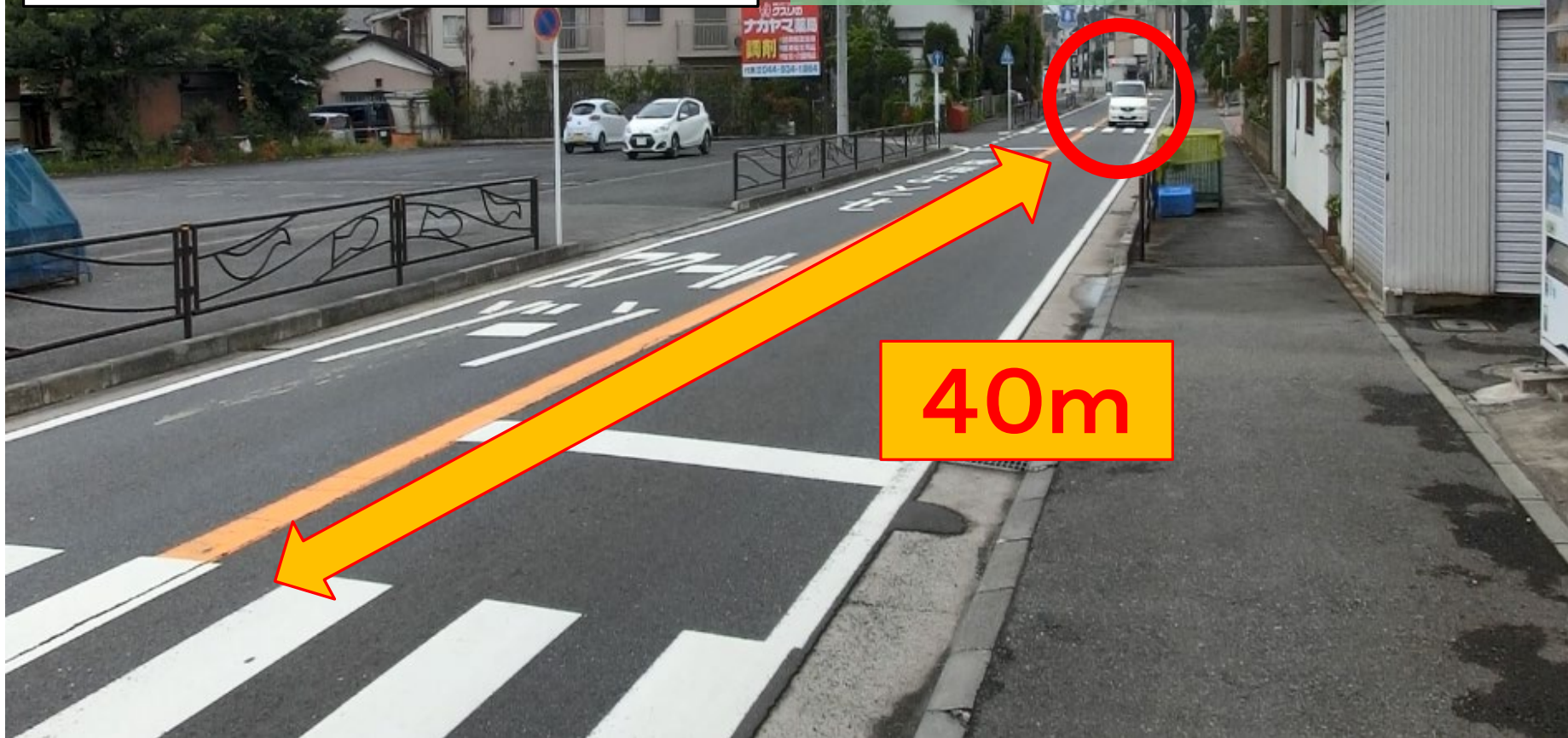
約5秒


・大人の場合、「速度」と「距離」から判断して、大抵の人であれば、横断歩道を**渡れる**と判断する



・**時速60km**の場合
車が来るまで
約2秒

・大人の場合、「速度」と「距離」から判断して、大抵の人であれば、横断歩道を**渡れない**と判断する



A photograph of a residential street in Japan. The street has a crosswalk with white stripes and a red bar painted on the road surface. There are buildings, utility poles, and a car in the distance. The sky is overcast. Two green text boxes are overlaid on the image.

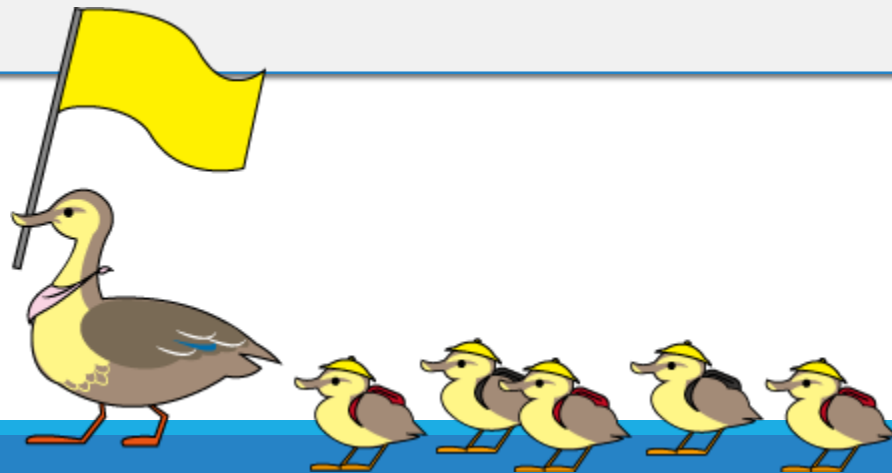
・子供の場合、「距離」のみ
で判断して、「速度」を考慮
しない傾向にある

・「飛び出し」が発生しやす
くなる

その他にも . . .

善悪の区別なく大人の行動を模倣する

- 特に保護者の交通行動を模倣
- 大人の違反行動を模倣すれば . . .



2 まとめ

- 視野が狭く**大人の半分程度**
- 物事に**一点集中**しやすい
- **感情**のコントロールが不得意
- 他者理解(**速度判断**)が苦手

児童が道路を歩くときは、
大人のサポートが必要です！



本日のトピック

- 1 小学生の事故の特徴
- 2 子供の特性
- 3 はたふり誘導の方法

その1

旗振りの根拠法令

ハンドブック 14ページ

通学・通園児の保護義務

～道路交通法第14条第4項～

「児童や幼児が通学や通園のため道路を通行している場合において、誘導、合図その他適当な措置をとることが必要と認められる場所に**居合わせた者**は、これらの措置をとることによって、**児童・幼児が安全に通行できるよう努めなければならない。**」

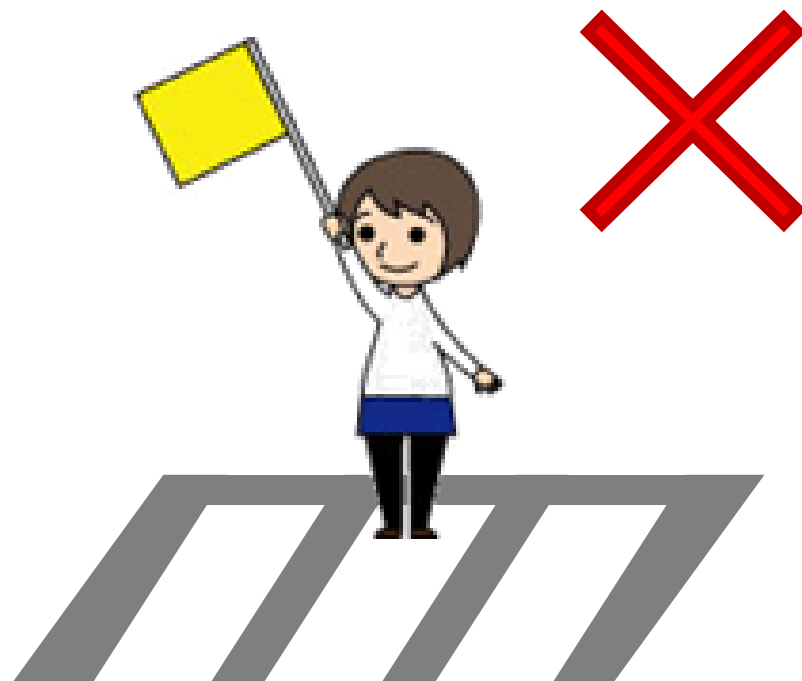
その2

誘導者の立つ位置

ハンドブック 4ページ

- 車が
 - 車から
- 良く見える位置に立つ

- 車道に出ない



- ・ 自転車横断帯の前
- ・ 点字ブロックの上

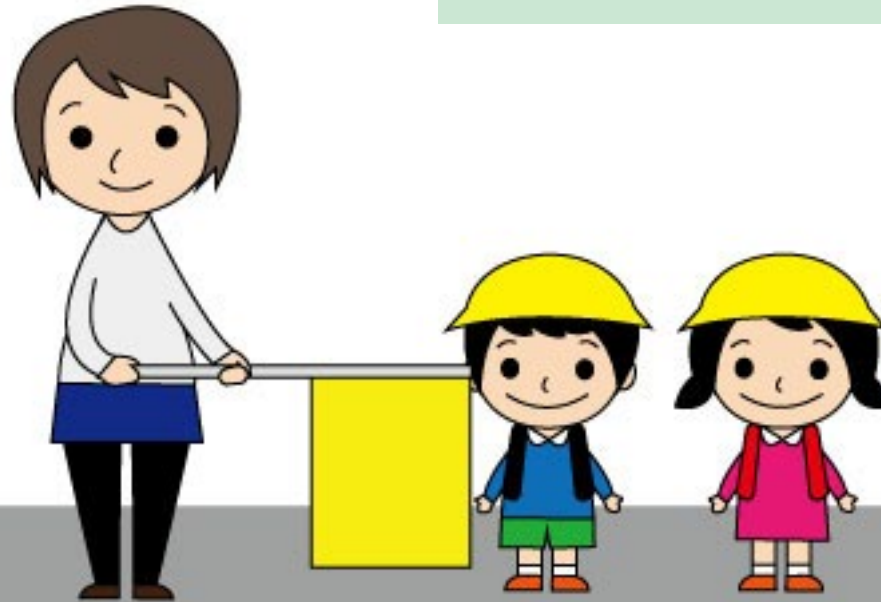


その3

横断旗の使い方

ハンドブック 5～8ページ

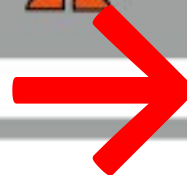
① 児童を待たせる時は、旗を地面と水平に持ちます



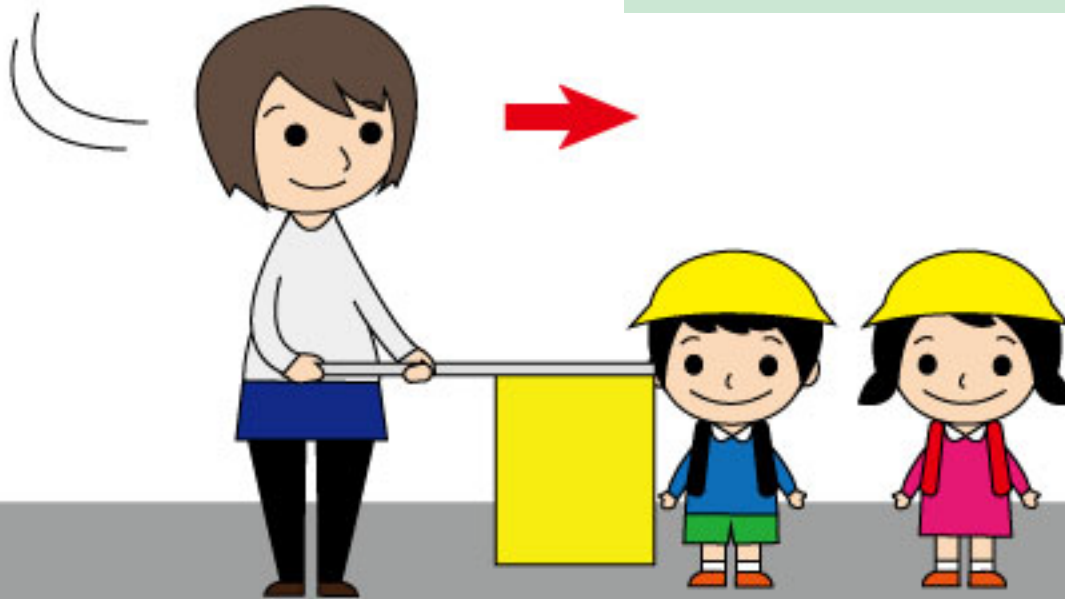
※ 歩道ギリギリや歩道から降りて待ってる児童を見たら注意してあげてください



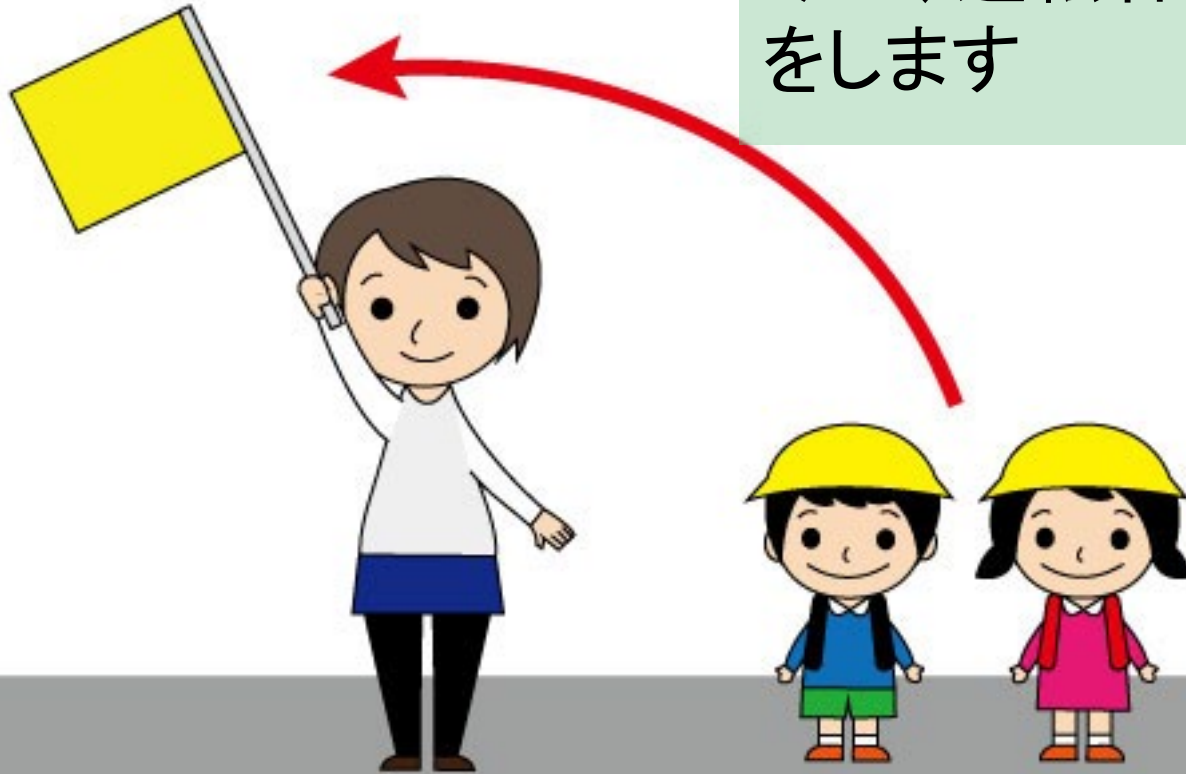
ちょっと下がって待とうね



② 児童が集まったら、左右
の安全確認をします



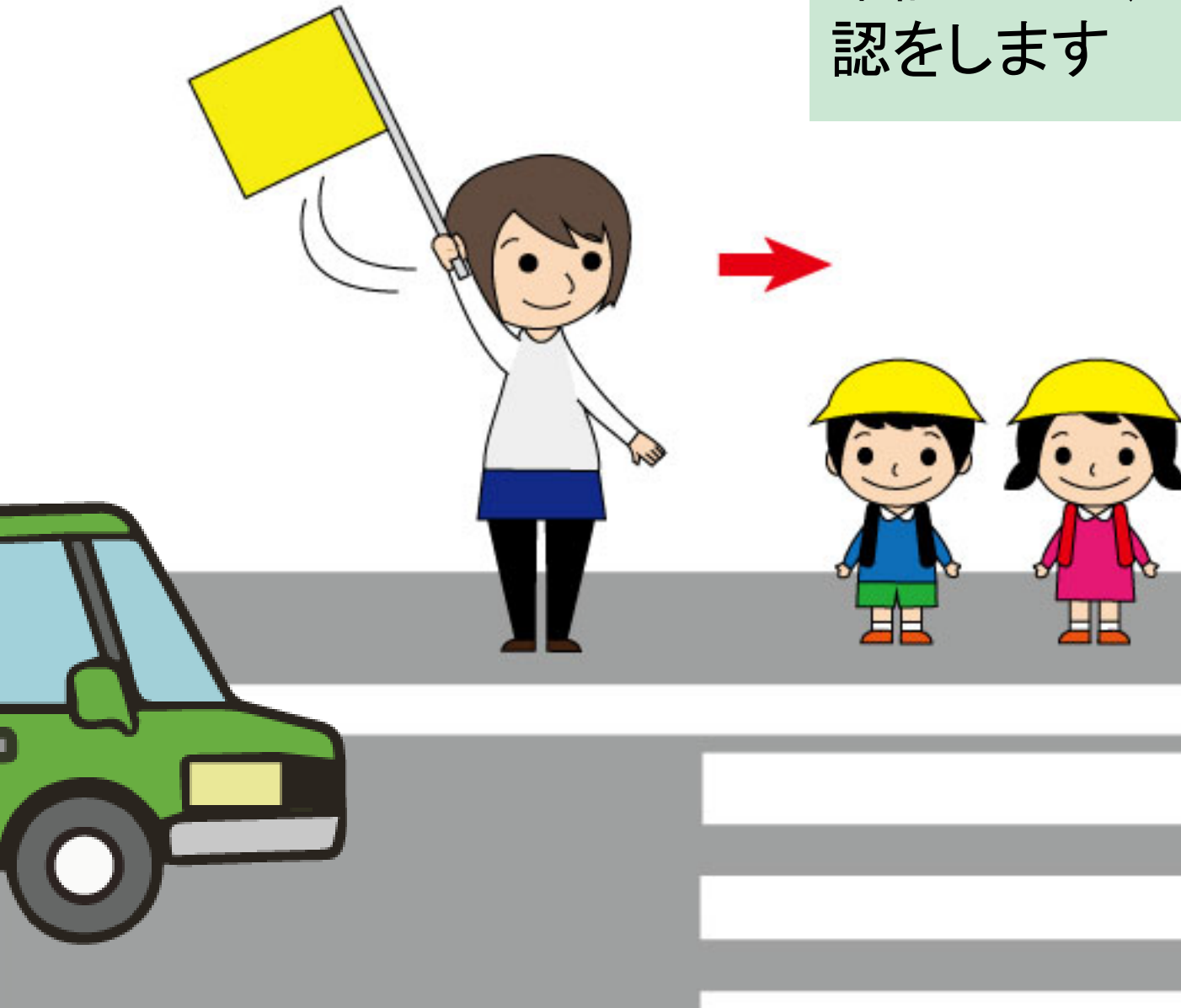
③ 一度大きく頭上に旗をあげて、運転者に対して合図をします



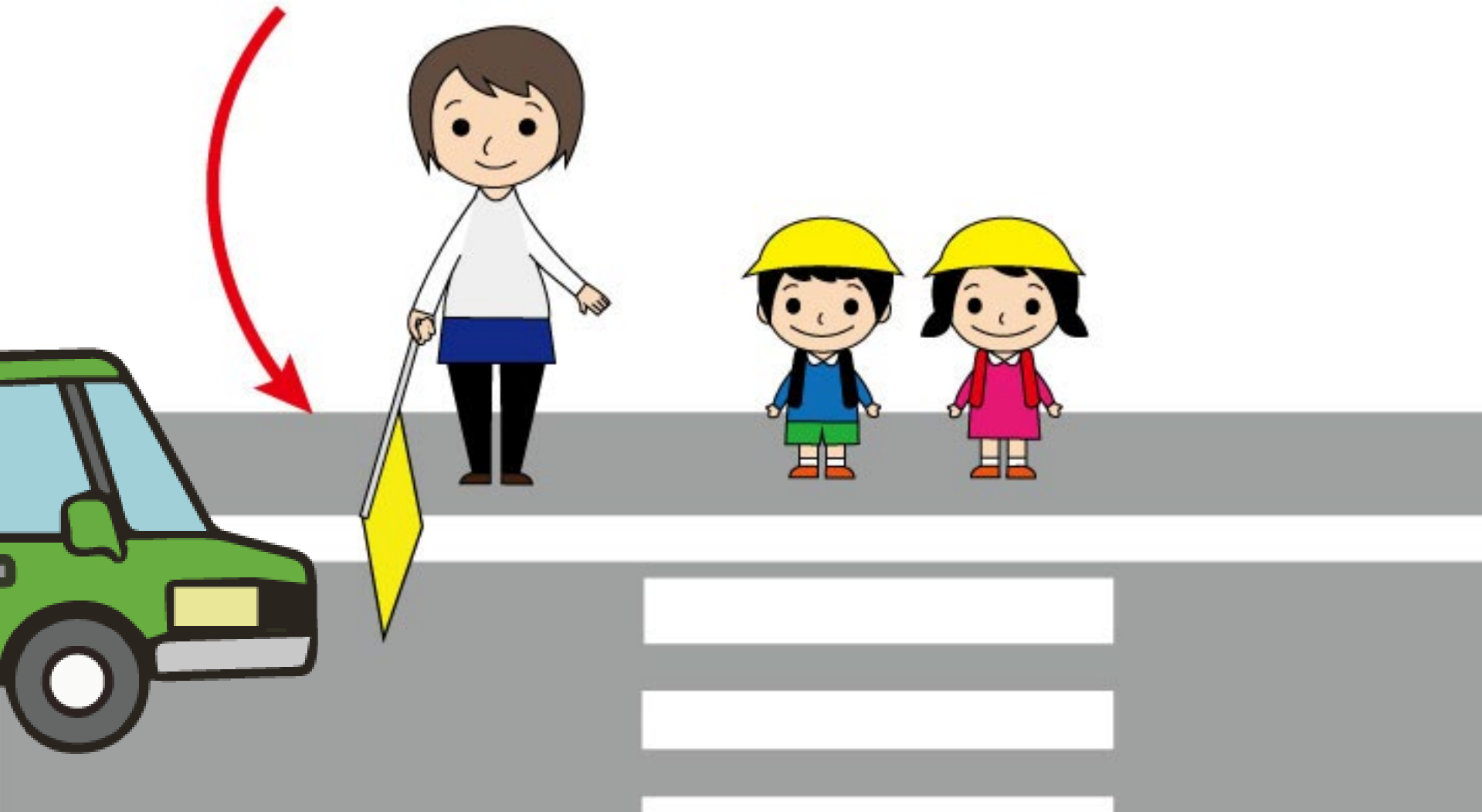
④ 旗を頭上にあげるのと同
時に、左手(旗を持っていな
い手)の手のひらを児童に
向けて飛び出さないようにし
ます



⑤ 車が完全に止まるのを
確認したら、左右の安全確
認をします



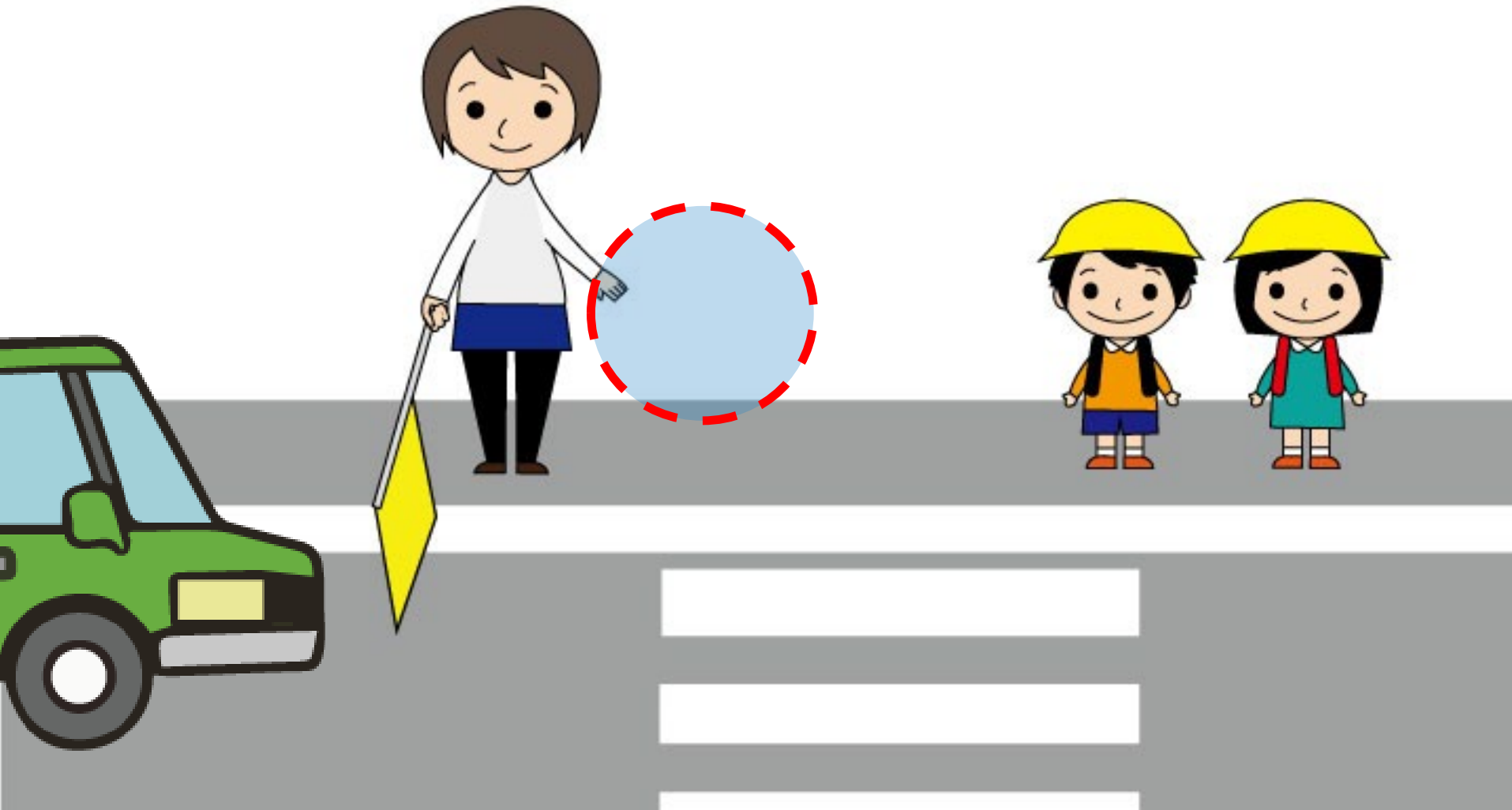
⑥ 旗を道路に出します



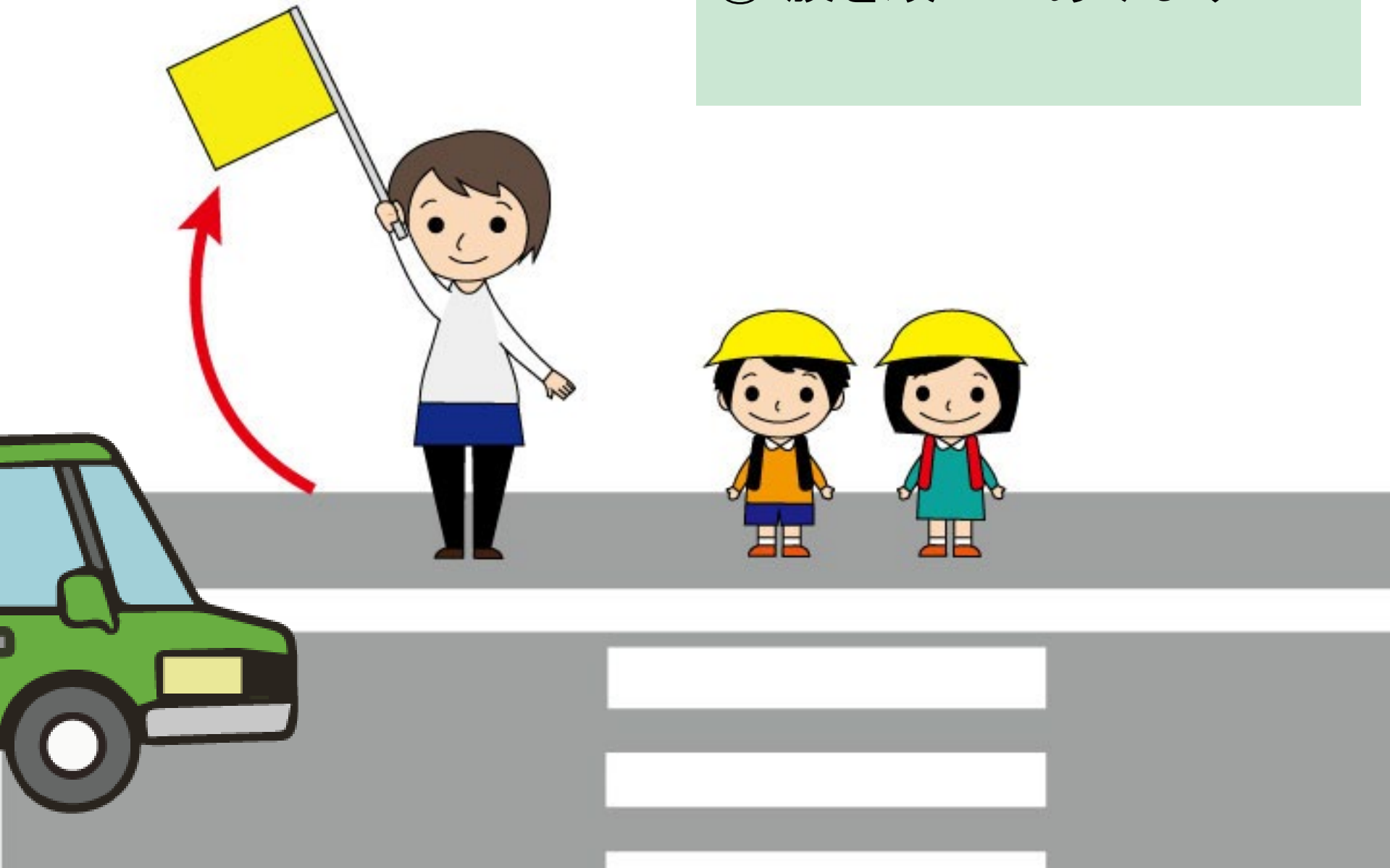
⑦ 児童を渡らせます



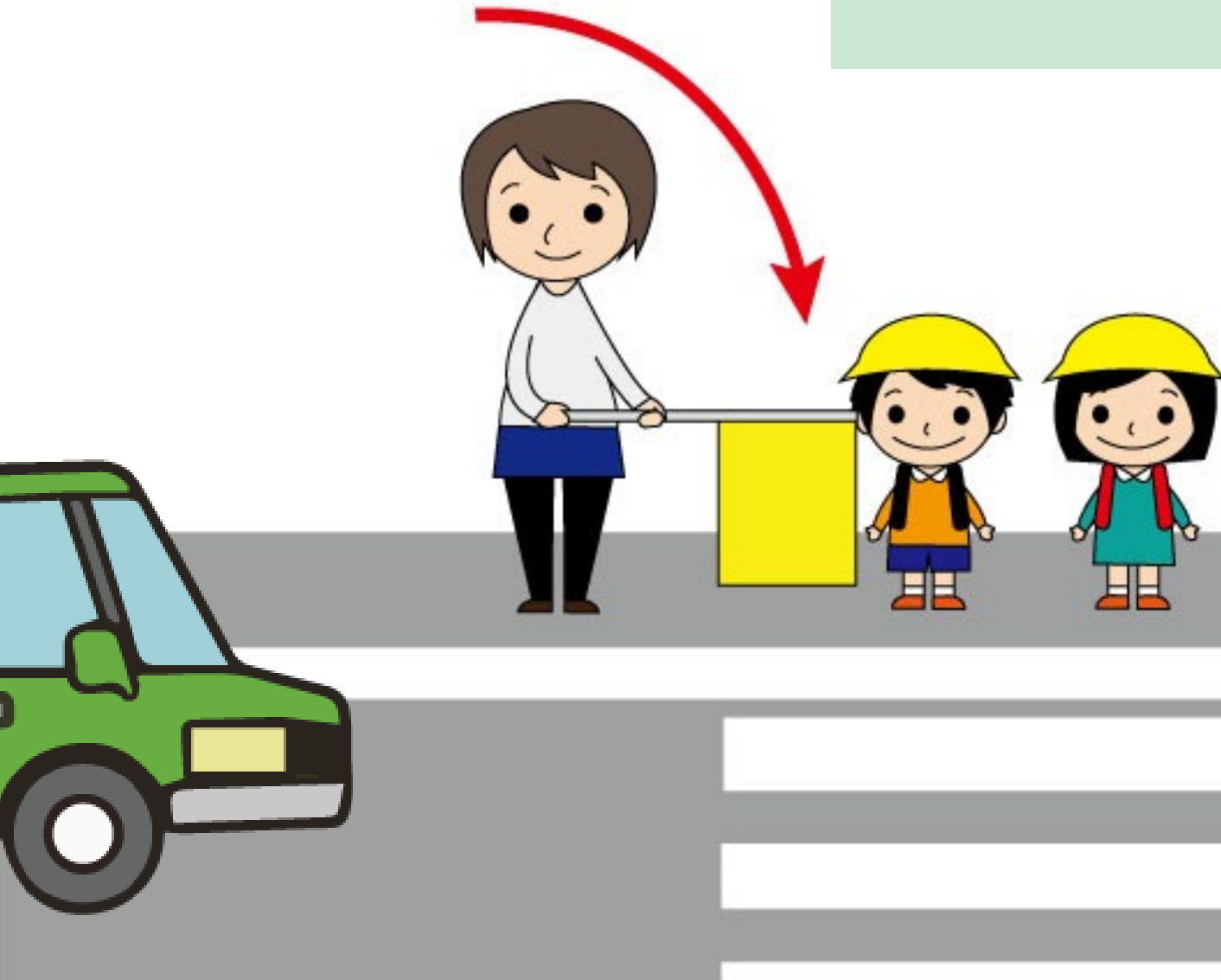
⑧ 信号の点滅など後から来た児童が続けて渡ってしまわないように、左手(旗を持っていない手)で塞ぎます



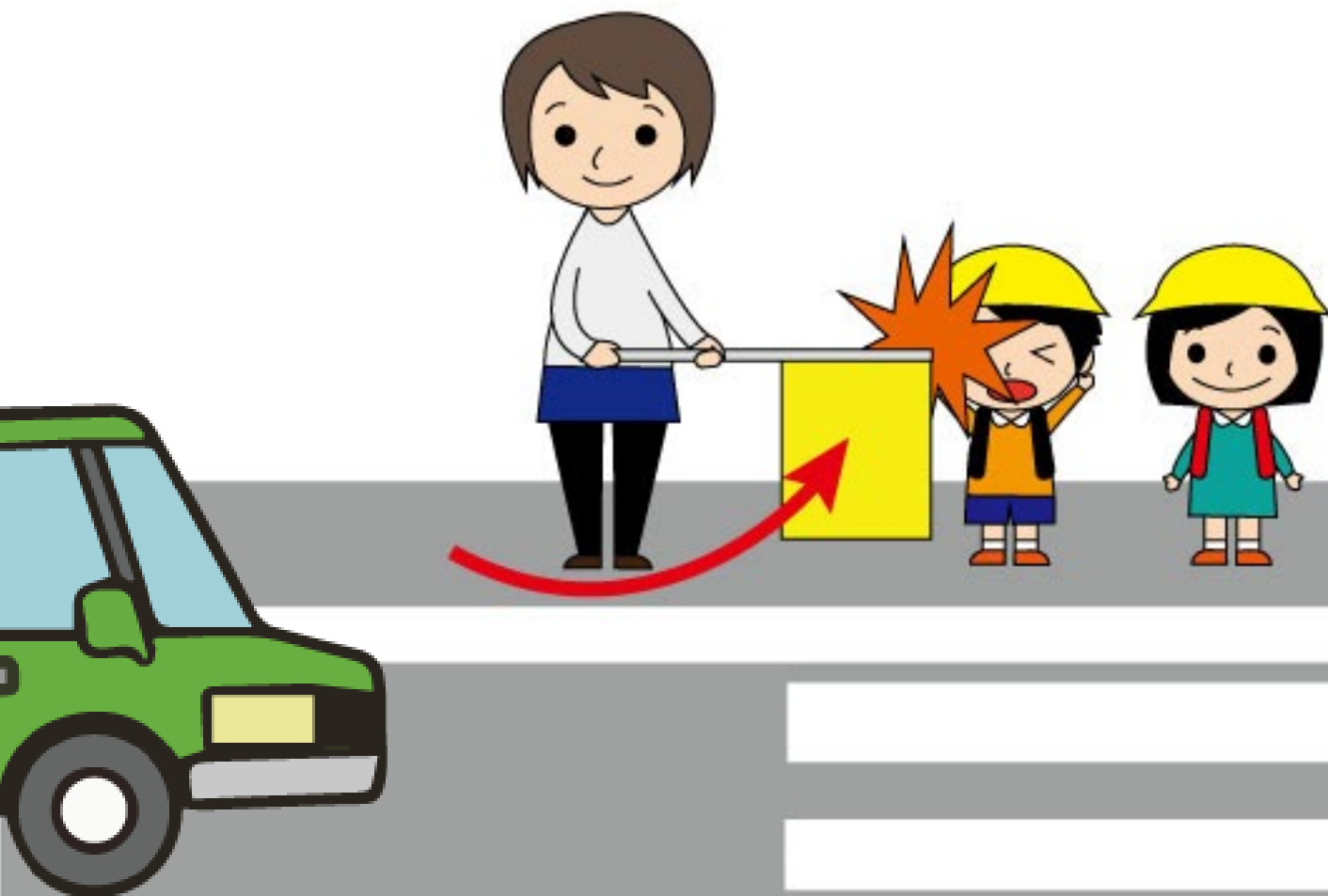
⑨ 旗を頭上にあげます



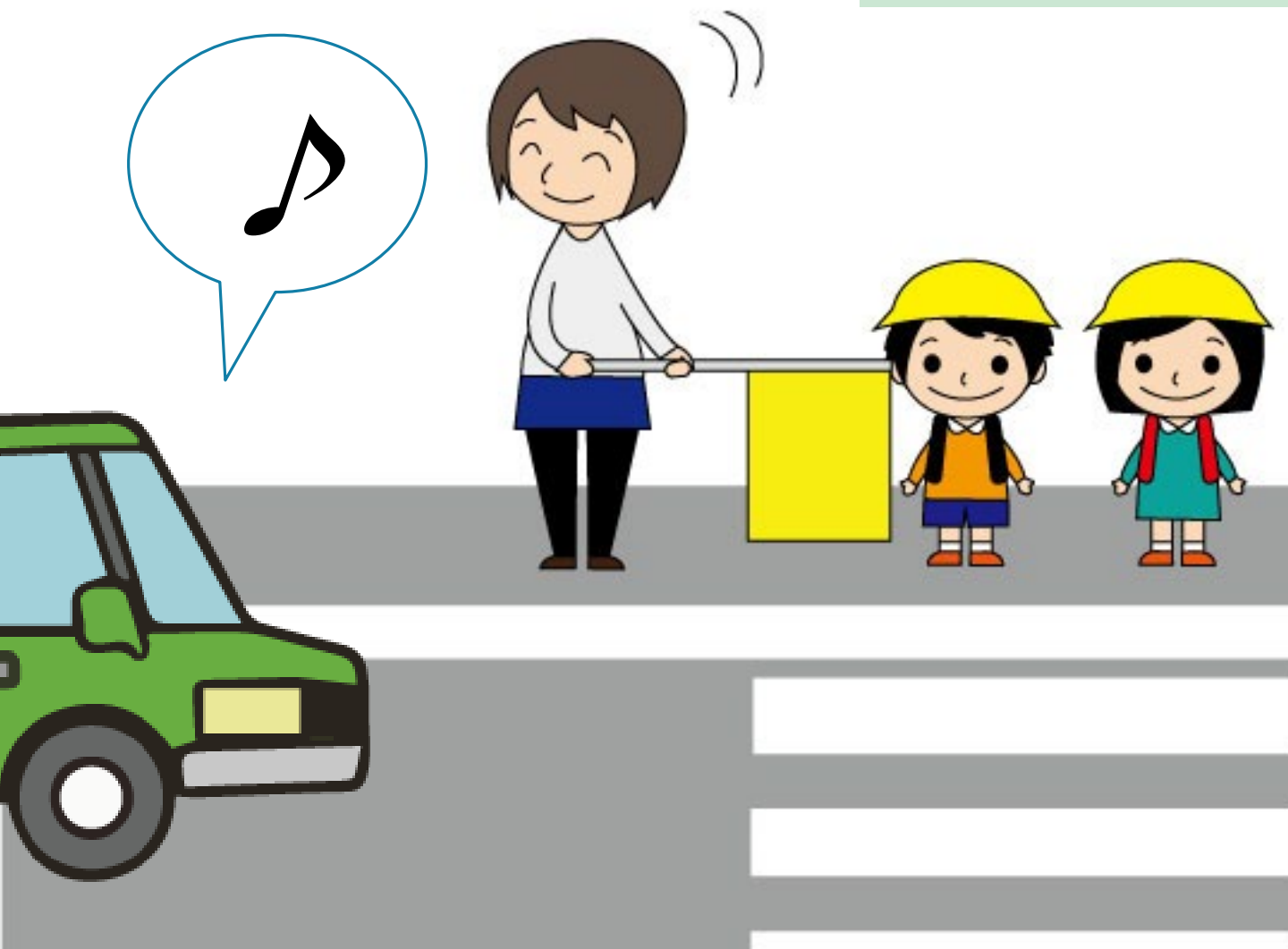
⑩ 旗を手元に戻します



※ 旗を頭上にあげず、突然
戻すと児童にぶつけてしま
うかもしれません



⑪ 最後に止まってくれたドライバーに会釈をします





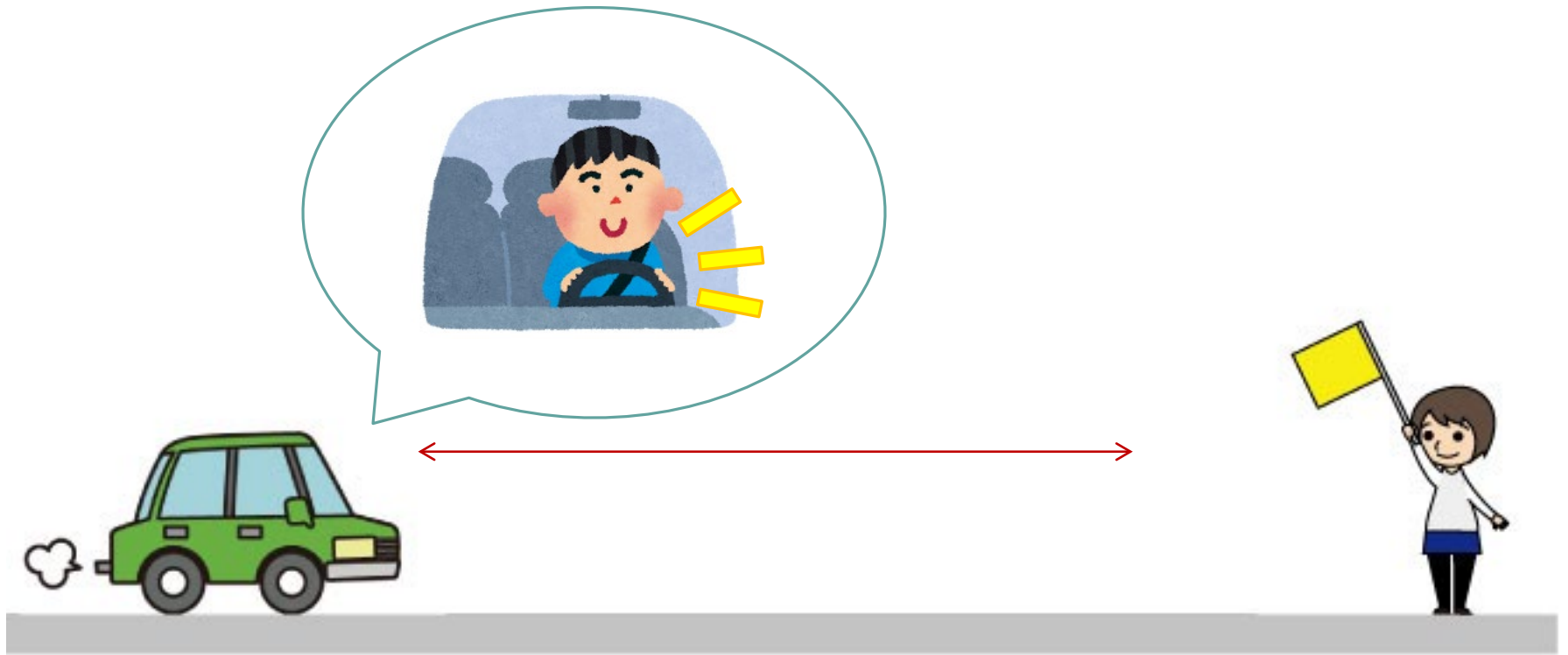
横断するときには、
手を挙げさせる

その4

横断旗のタイミング

ハンドブック 4ページ

自動車が止まるために十分な距離があることを確認



自動車が停止するには…

- ・時速40kmで**22m**



- ・時速60kmで**44m**



の距離が必要

旗を出すタイミングの目安となる
目標距離（**目標物**）を決めておきましょう。

例えば・・・



このあたりに車がき
たら、旗を出そう

など

その5

注意すること

ハンドブック 9～12・3ページ

注意点①

慌てず、大きく、はっきりと

- ・「自動車が渋滞」してしまったり、「児童が歩道にたまって」しまっても慌てない

- ・ 児童の安全確保が第一です

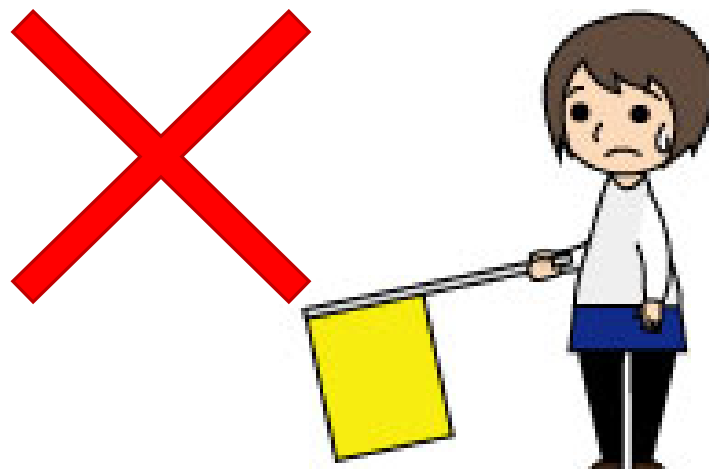
安全第一



- × 中途半端に旗をあげる
- × 小さい動作で旗を振る
- × あいまいな動作



・ドライバーに伝わりにくい動作は事故を招く可能性があります

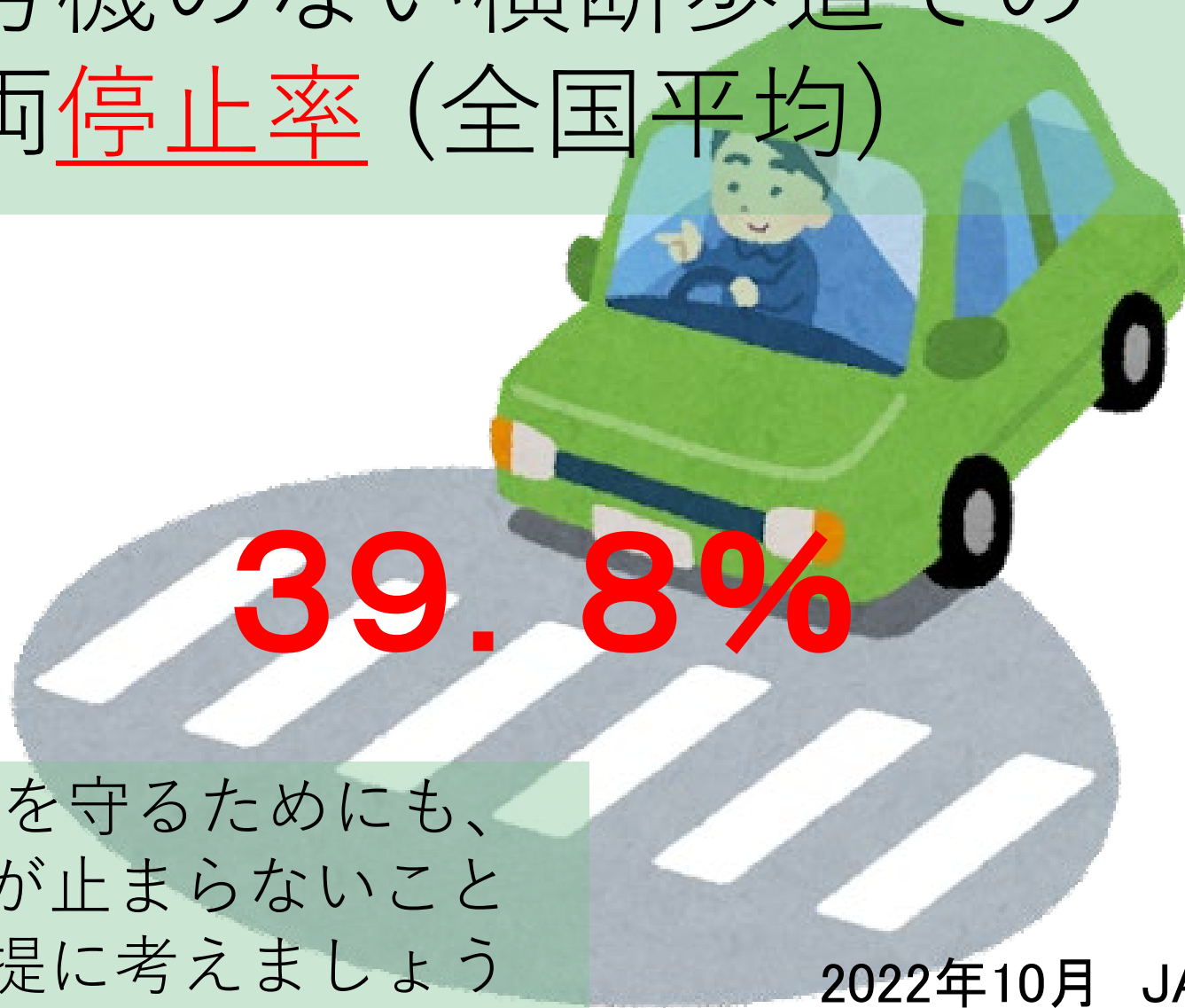


注意点② 自分の身も守る

- ・ 止めるとき **車道には出ない**
- ・ バイク、自転車のすりぬけに注意する



信号機のない横断歩道での 車両停止率 (全国平均)

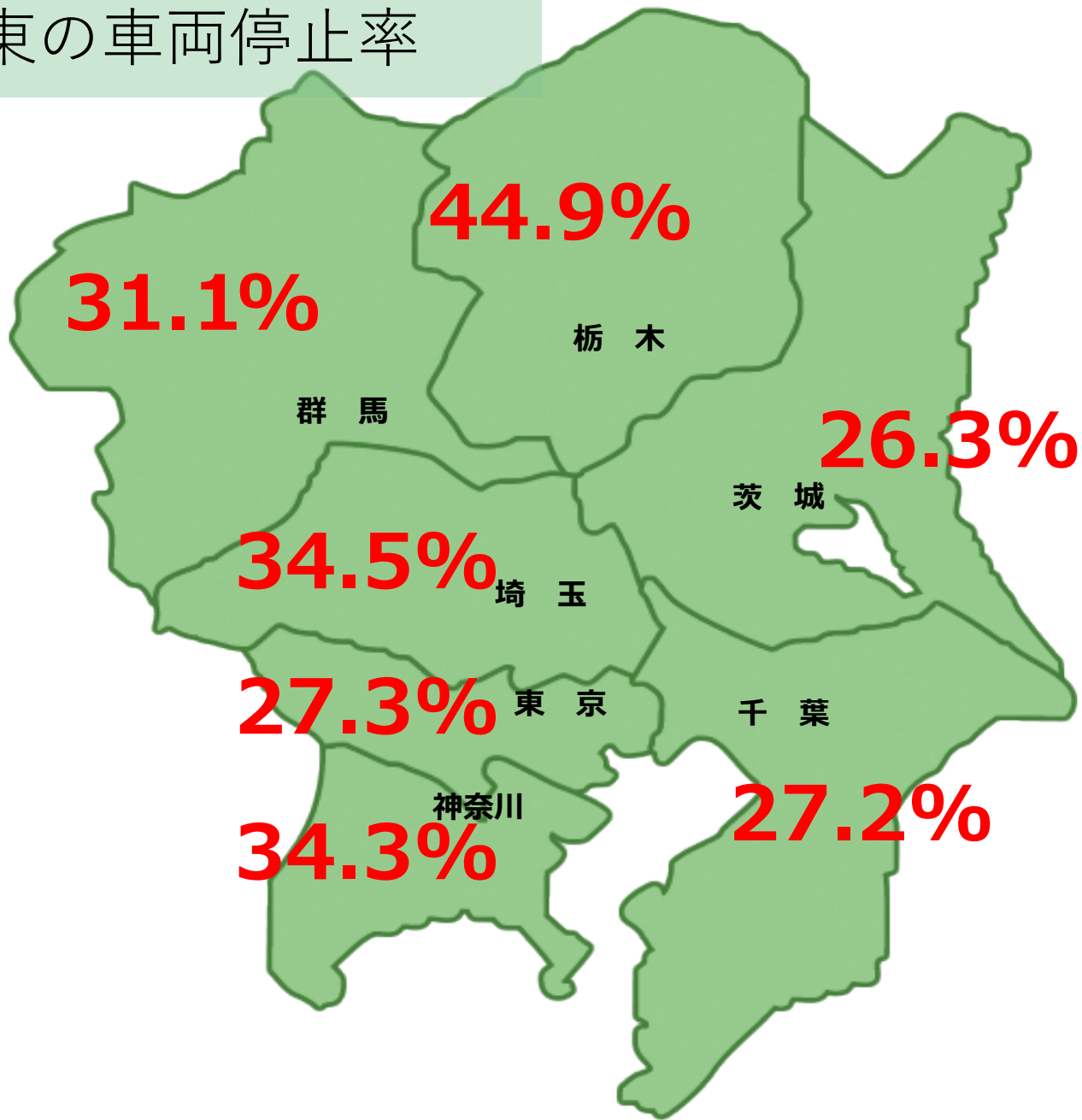


39.8%

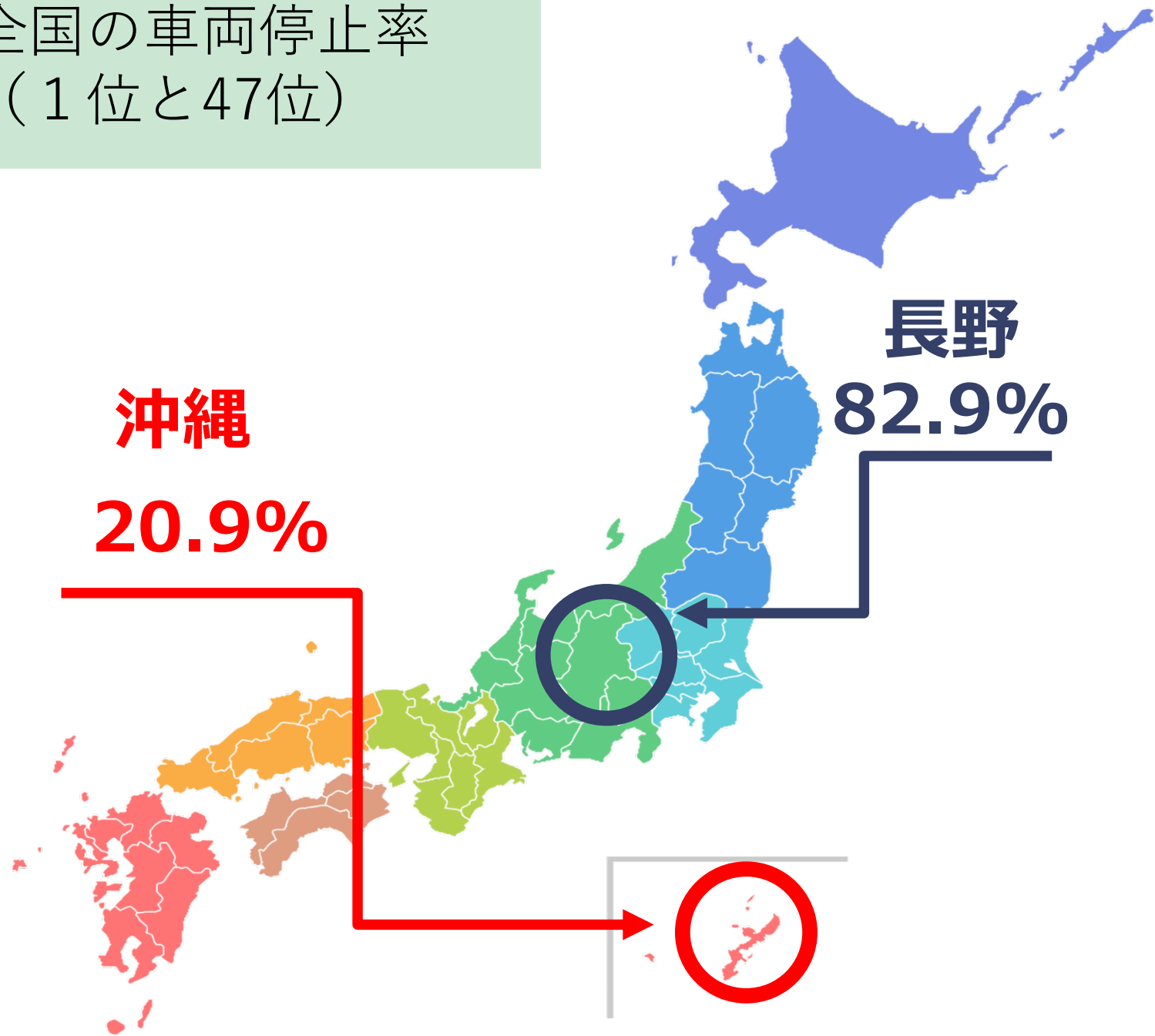
- ・ 身を守るためにも、
車両が止まらないこと
を前提に考えましょう

2022年10月 JAF調べ

・ 関東の車両停止率



- 全国の車両停止率
(1位と47位)

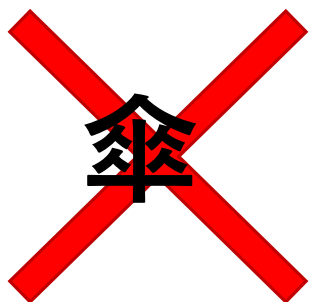


身を守るために



雨の時は…

- ・ 旗振りには**両手**を使います



レ イ ン コ ー ト
合 羽



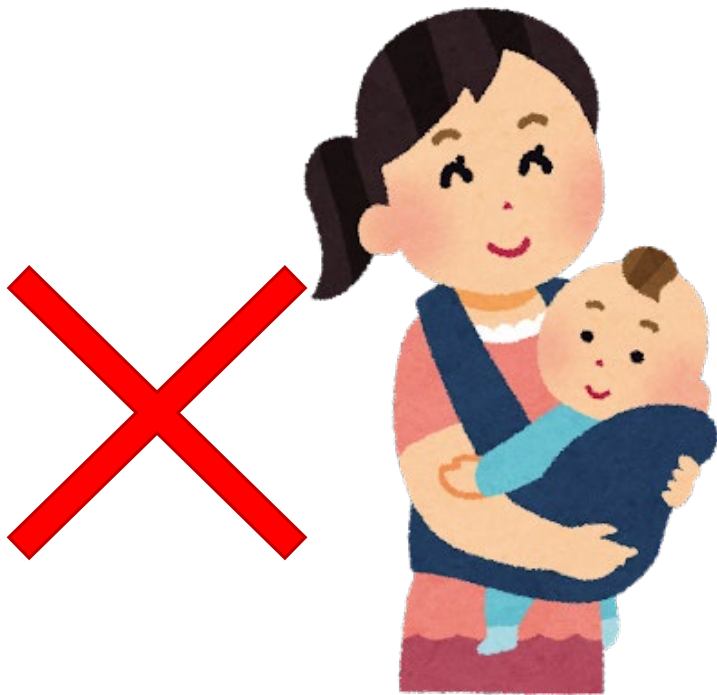
目立つ色の服装、反射材を着用 靴は、かかとの低いものを

- ・ 腕章やベストを貸与されている場合は、忘れずに着用



乳児や幼児を

一緒に連れて行かない

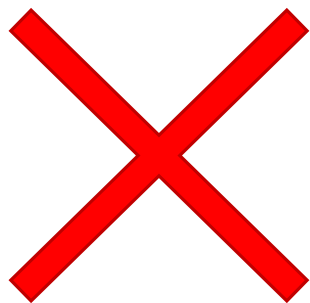


- ・ もし事故に遭った場合、抱えている(背負っている)乳児が危険です

- ・ 幼児も親の横で急に「飛び出す」可能性があります

注意点③ 自動車に指示をしない

- ・ 横断旗には、
自動車を止める強制力は無い

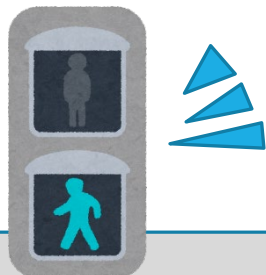


- 協力してくれた運転手に**感謝の気持ち**を伝えたら、発進は運転者に任せる



注意点④ 信号に従う

信号のある横断歩道では信号に従う



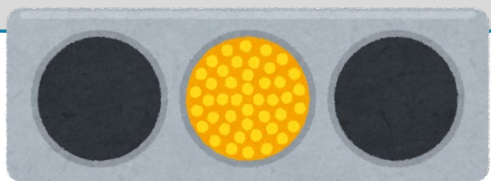
青の点滅信号



黄色信号



横断させない



注意点⑤ 先頭大型車は止めない

- ・ 後ろの車の運転手が前方を確認できない
- ・ 大型車を追い越すバイクがいる



- ・ 自主的に止まってくれた大型車は除きます

「安全は 心と時間の ゆとりから」

Fin



ルールちゃん まもるくん